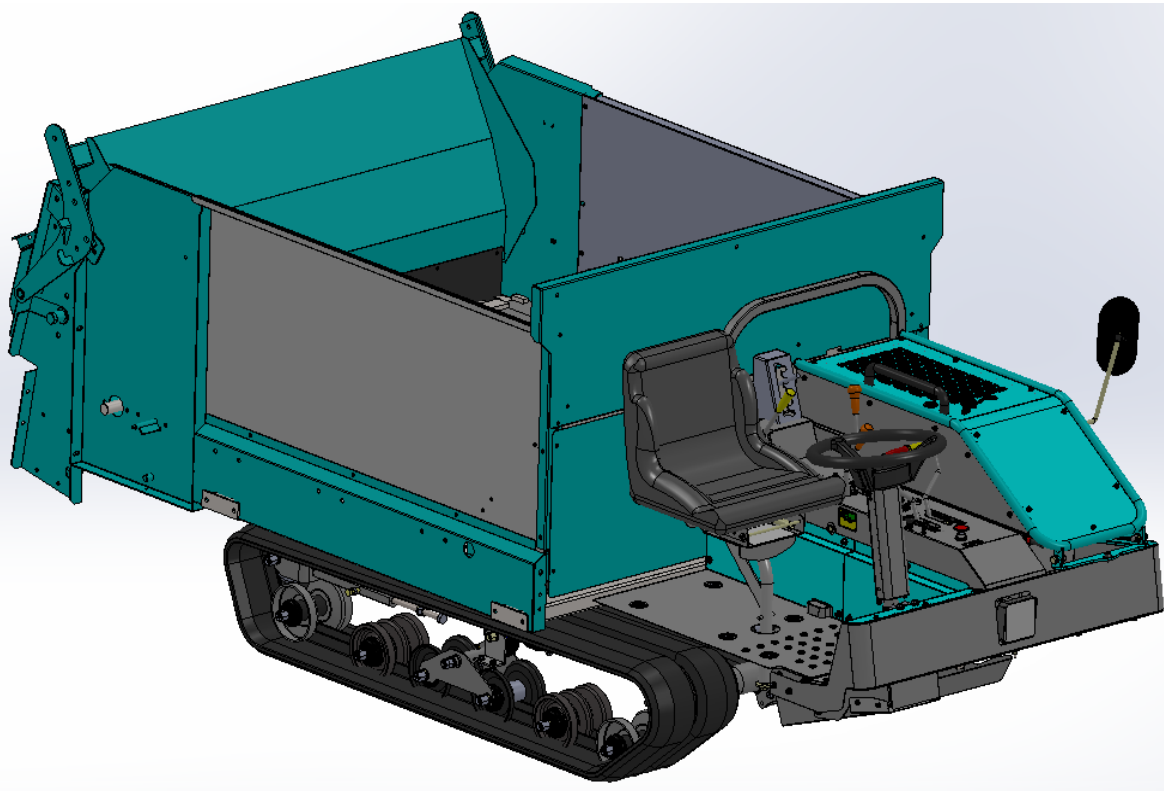


取扱説明書及び部品表

Takakita

自走マニアスプレッダ

SD1021D



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**自走マニアスプレッダ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付の点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	12
各部の名称とはたらき	13
運転に必要な装着の取扱い	15
1. キースイッチ	15
2. エンジンスロットルレバー	
・チョーク	15
3. 走行クラッチレバー	
・駐車ブレーキレバー	16
4. ハンドル	16
5. 変速レバー	17
6. 作業クラッチレバー	17
7. コンベア送りレバー	17
8. ゲート	18
9. シート	18
作業前の点検について	19
1. 点検一覧表	19
運転のしかた	20
1. 新車の取扱い	20
2. 走行順序	20
3. 停止順序	20
4. 走行時の注意	21
作 業 方 法	22
1. 作業手順と要点	22
2. 堆肥の積込み	23
3. 散布量の調節	23
4. 散布方法	25
5. 移動するときには	25
6. トラックへの積込み・積降ろし	25
7. トラックおよびトレーラでの運搬	26
簡単な手入れと処置	27
1. エンジンカバーの開け方	27
2. エンジンの点検・調整	27
3. エンジンのエアクリーナ(重要)	27
4. エンジンオイルの点検と交換	28
5. バッテリーについて	28
6. 走行ギヤボックスのオイル点検	29
7. クローラ張力の調整	29
8. ハンドルの調整	30
9. 走行クラッチレバーの調整	30
10. 駐車ブレーキレバーの調整	31
11. 作業クラッチの調整	31
12. 各部のチェンの調整	32
13. コンベアチェンの調整	32
14. コンベア送り機構部の調整	32
15. 各部のベルトの調整	33
16. 各部への注油、グリスアップ	34
17. 日常の管理について	34
18. 長期格納時の手入れ	34
19. 使用済廃棄物の処分について	35
不 調 診 断	36
付 表	38
1. 主要諸元	38
2. 配線図	39
3. 主な消耗部品	39

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解したうえで使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

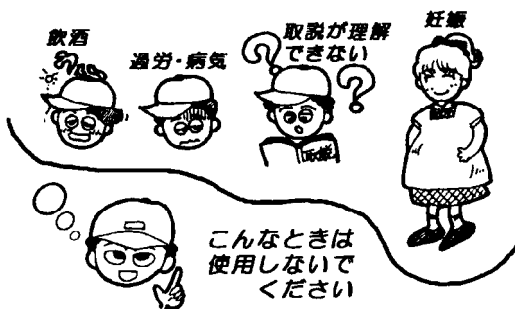
機械を貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

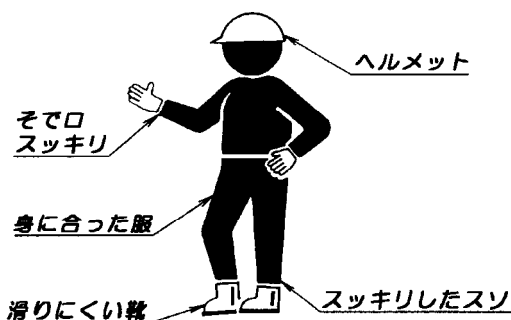
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



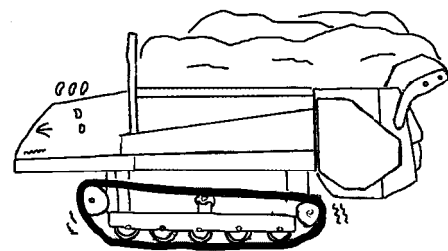
(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



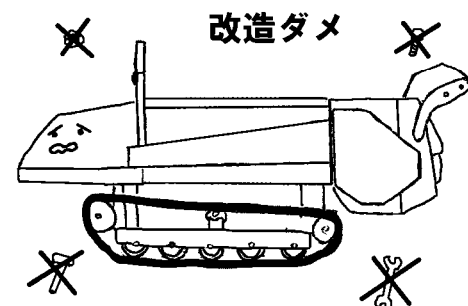
(3) 積載量の厳守

本機は、積載量を限定しています。表示以上の積み過ぎは危険です。積載量は平地で1000kg、傾斜地作業は最大傾斜15度までとし、そのときの積載量は600kgです。



(4) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けしないでください。
また、改造しないでください。



(5) 使用目的以外への使用禁止

堆肥を散布することを目的とした機械です。
他の目的には使用しないでください。

⚠ 安全に作業するために

(6) 機械を他人に貸すとき

取扱い方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



(7) 運転者以外に人を乗せない

本機の乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業できるようにしてください。

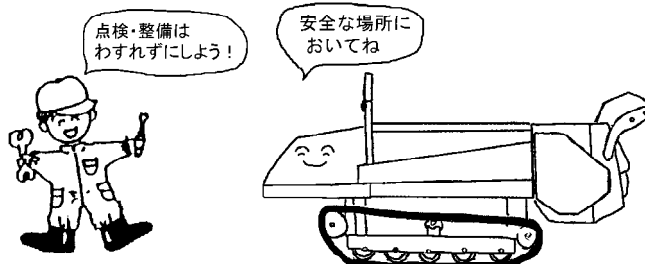


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でエンジンを停止してから行ってください。

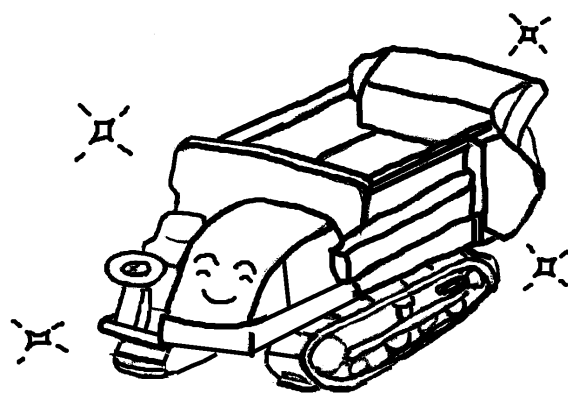


(4) 点検・整備は加熱部分が冷めてから

マフラやエンジンなどの加熱部分が十分に冷めてから点検・整備してください。守らないと火傷をする恐れがあります。

(5) 機械を常にきれいに

エンジン・マフラ・ベルトカバー・バッテリーなどに枯草、芝草がたまっていると、思わぬ火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。



(6) 排気ガスには充分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、充分換気を行ってください。

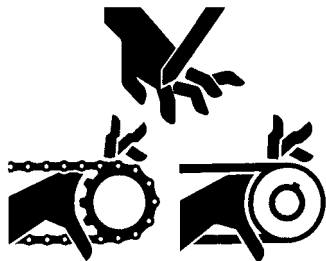


⚠ 安全に作業するために

(7) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずP T Oを切り、エンジンを停止してから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



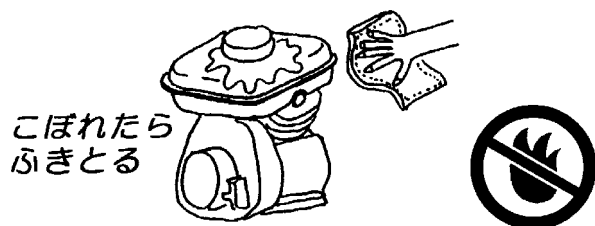
(8) 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草やマッチ・ライターなど裸火は絶対に使用しないでください。守らないと燃料に引火し、火災を起こす恐れがあります。



(9) こぼれた燃料は拭き取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



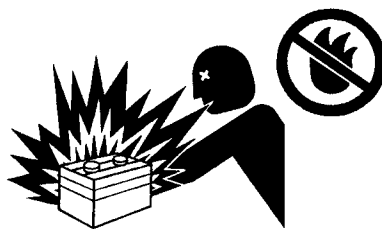
(10) 電気部品を修理するときは

①電気部品やその周辺の修理を行うときには、必ずバッテリーの(－)側を外してから実施してください。

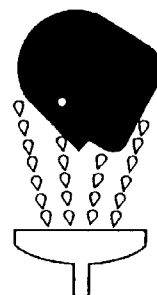


②バッテリーは、充電中可燃性ガスが発生し、引火爆発の恐れがあります。

充電中はタバコを吸ったり、火を近づけたりしないでください。



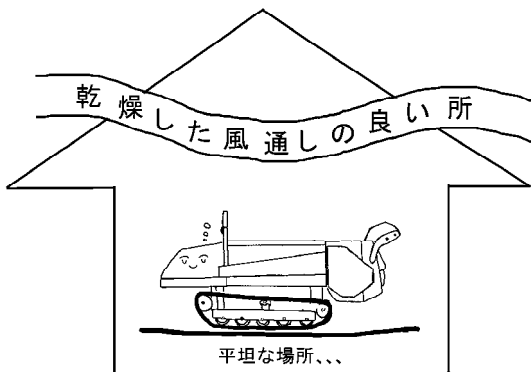
③バッテリー液は希硫酸です。取扱いには充分注意し、体や衣服に付かないようにしてください。もし目や体に付着した場合は、すぐ水で流し、すみやかに医療機関を受診してください。



⚠ 安全に作業するために

(1 1) 長期格納するときは

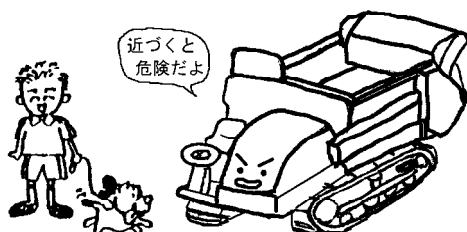
機械を清掃し、回転部およびチェーンには充分注油し、バッテリーを外し、キーを抜き取り、屋内の平坦な場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には充分注意し、近づかないようにしてください。



(2) エンジンを始動するときは

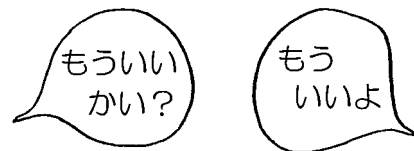
作業クラッチおよび走行クラッチを切り、変速レバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。

守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(4) 散布する堆肥の異物は取り除く

散布する堆肥には石・木片・鉄片などの異物を混入させないようにしてください。機械故障の原因となるばかりでなく、思わぬ方向へ飛散して危険です。



(5) 散布中は保護ガードより顔を出さない

散布中は運転席側にも堆肥などが飛散する場合があります。危険ですので、保護ガードより顔や頭を出さないでください。

(6) 散布作業するときは

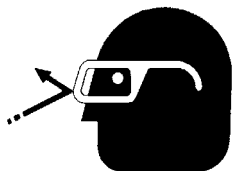
散布作業中は後方に堆肥が10m前後に飛散します。後方に人がいないことや障害物のないことを充分確認し、散布距離を考慮して作業してください。



⚠ 安全に作業するために

(7) 保護メガネ着用

肥料や堆肥が飛散し、目や呼吸器に入る恐れがありますので、必ず保護メガネと保護マスクを着用して作業してください。



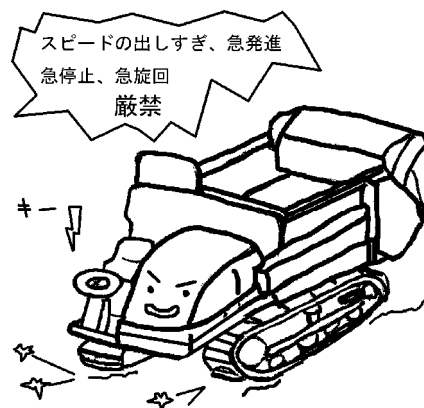
保護メガネ着用
保護マスク着用

(8) 急な発進・停止・旋回・

スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。



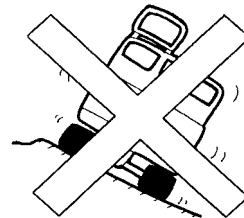
(9) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ① 斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。

斜面の作業は、必ず直角方向に走行してください。

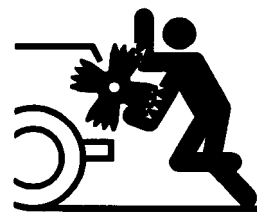
- ② チェンジ操作は行わず、変速位置をあらかじめ低速にして速度を下げ、特に下り坂ではエンジブレイキを使用してください。



(10) 回転中のビータやコンベアバー・

コンベアチェンには触れない

回転しているビータやコンベアバー・コンベアチェンに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



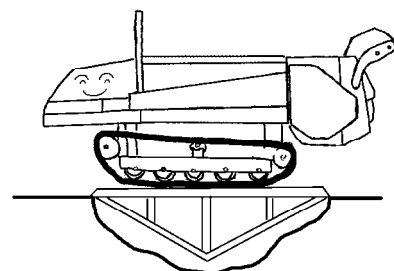
(11) 移動及び作業の旋回の際は

旋回時に片方のクローラをあぜに乗り上げたり、あぜぎわでの急旋回は絶対に行わないでください。転倒や脱輪の恐れがあります。

(12) 溝や畦を横断したり

軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。

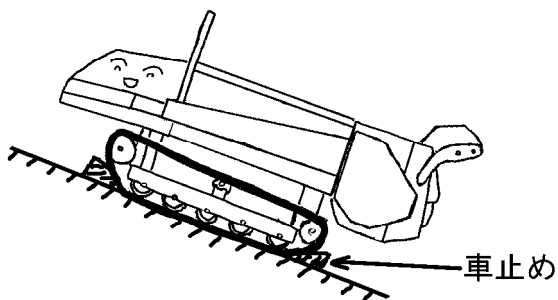


⚠ 安全に作業するために

(13) 作業途中で運転席より離れるときは

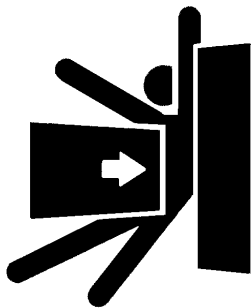
本機を停車するときは、平坦な場所に置き、エンジンを停止し、変速レバーを低速に入れ駐車ブレーキをかけてください。

やむを得ず坂道に駐車するときは、車止めをしてください。



(14) 後進して作業するときは

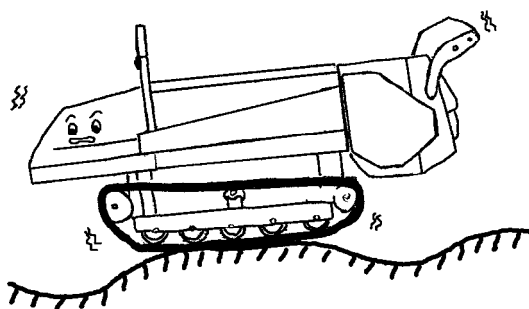
後方に障害物のないことを充分確認し、本機と障害物の間に人や動物を挟まないようにしてください。



(15) あぜの乗り越え

畦畔を越えるときは、機体が上向きから下向きに急に変わるので十分に注意し、最低速度で畦畔に直角に越えるようにしてください。あぜがコンクリートであったり、高さが10cm以上のときはアユミ板を使用してください。

凸部は注意して



(16) 高温油に注意してください

①高温油による傷害を防止するために作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か充分温度が冷えてから行ってください。

②火傷やケガを負った場合は、速やかに医療機関を受診してください。

高温のときは
やめて!!



安全に作業するために

4. 道路走行・輸送するときは

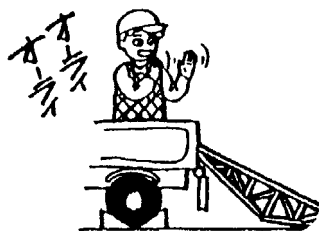
(1) 公道は走行できません

本機は公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックなどで運送してください。

(2) トラックなどへの積み込み・降ろしは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをし、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度でクラッチを使わずに行ってください。

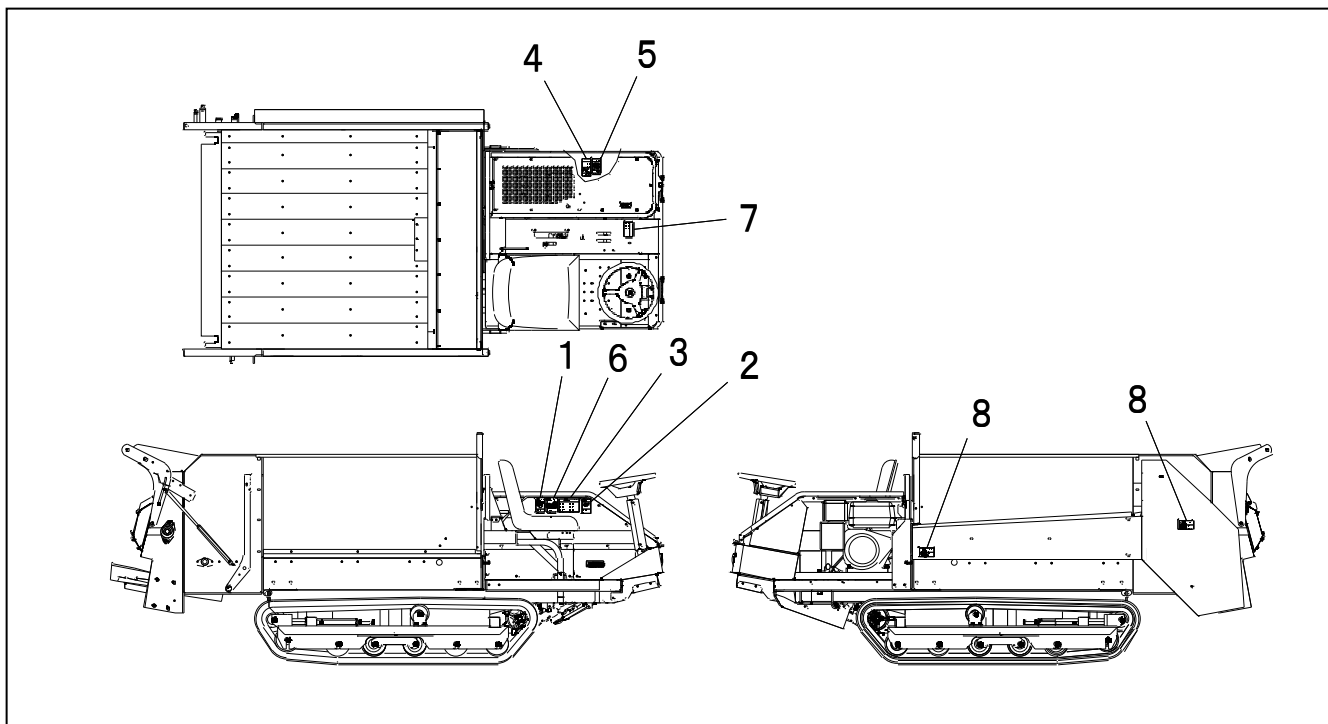
積み込んだ機械は車止めをし、強度が充分にあるロープで確実に固定してください。



以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で  印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

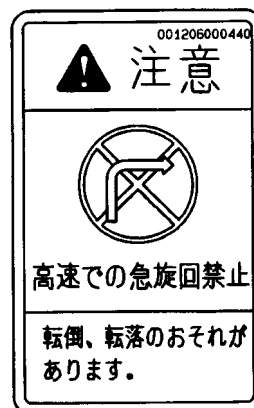
5. 警告ラベルの貼付け位置



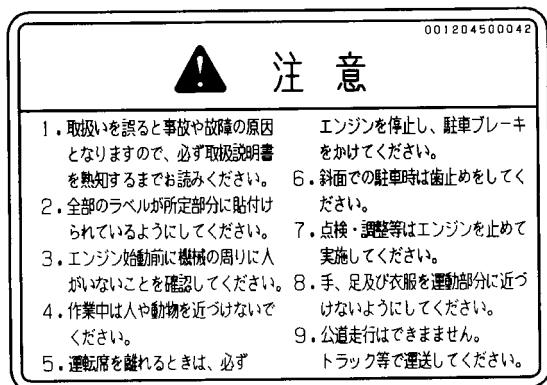
①部品コード 001206000400



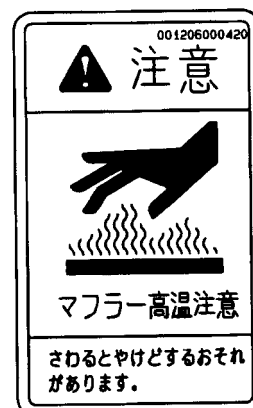
②部品コード 001206000440



③部品コード 001204500042



④部品コード 001206000420



⚠ 安全に作業するために

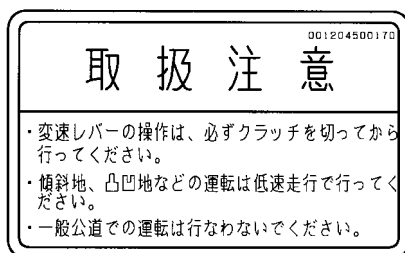
⑤部品コード 001206000390



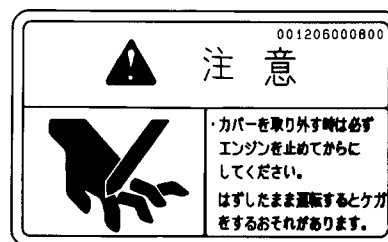
⑥部品コード 001306000210



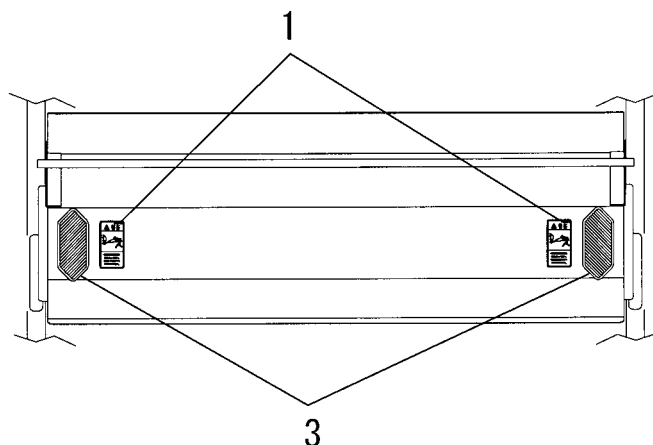
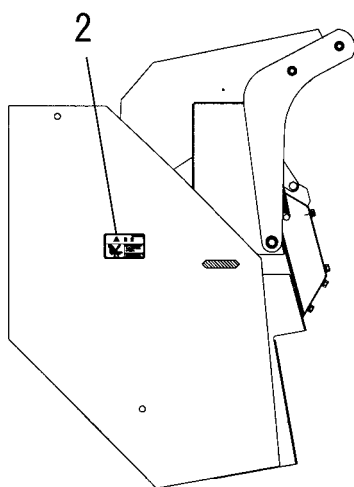
⑦部品コード 001204500170



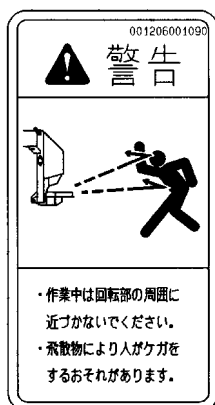
⑧部品コード 001206000800



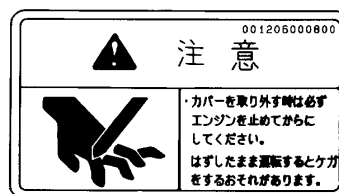
⚠ 安全に作業するために



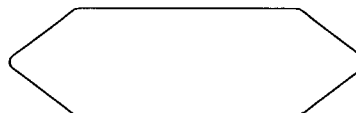
① 部品コード 001206001090



② 部品コード 001206000800



③ 部品コード 001206001010



安全に作業するために

警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、剥がれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、牛糞などの堆肥を散布する作業にご使用ください。

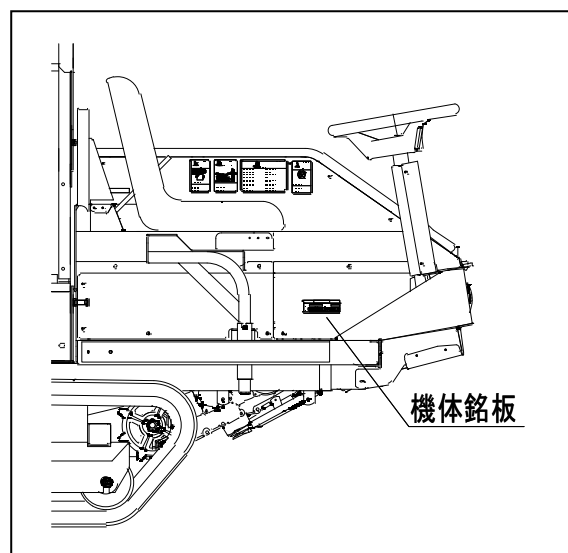
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、J A (農協)、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

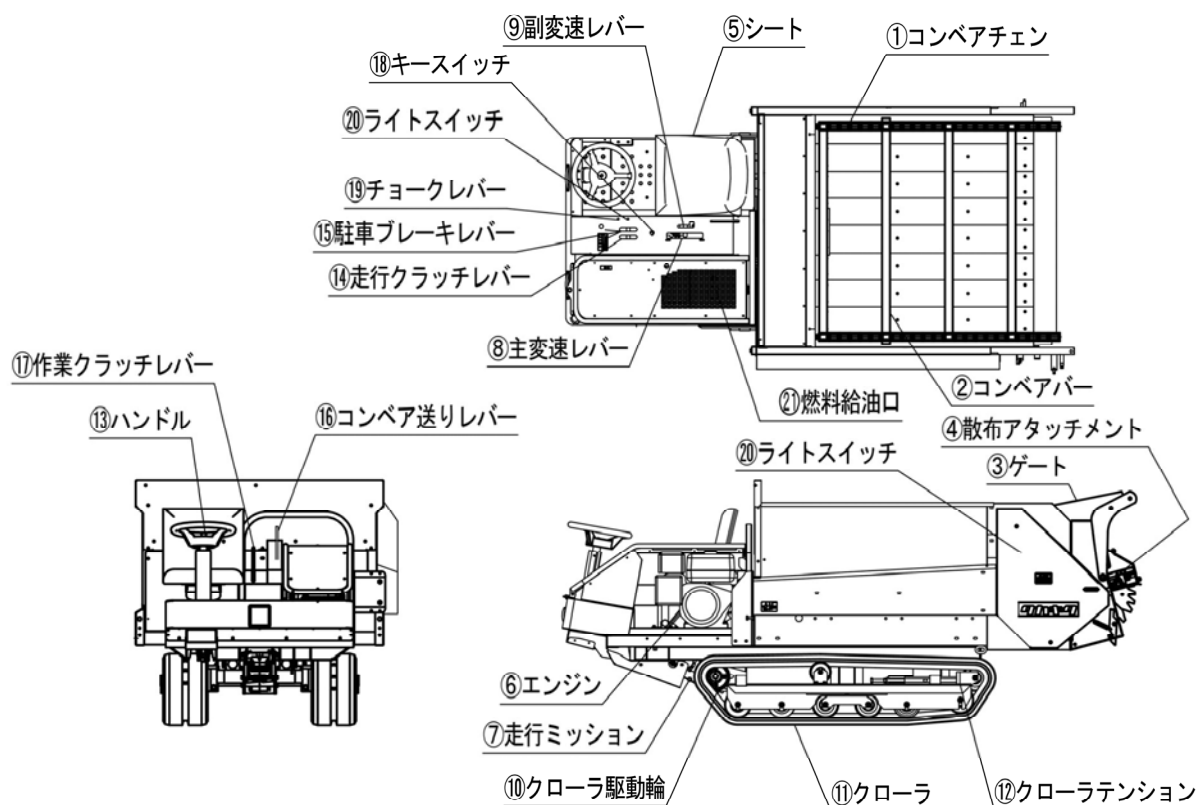
- 品名と型式
- 機体 No. (S E R - N o.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	自走マニアスプレッダ
型 式	S D 1 0 2 1 D
機 体 No. (SER-No.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

各部の名称とはたらき



	番号	名 称	は た ら き	参照 ページ
機能 構成 部	1	コンベアチェン	コンベアバーを連結します。	32
	2	コンベアバー	堆肥を後方の散布アタッチメントまで運びます。	—
	3	ゲート	移動時に堆肥が後方へこぼれるのを防止するとともに、散布時に堆肥を定量送ります。	18
	4	散布アタッチメント	コンベアバーで運ばれてきた堆肥を散布します。	—
	5	シート	作業者の座席です。	18
動力伝 達 構 成 部	6	エンジン	動力源、燃料はレギュラーガソリンを使用します。	27
	7	走行ミッション	走行部のクローラへの動力伝達をするギヤボックス。	29
	8	主変速レバー	走行速度を切り換えます。	17
	9	副変速レバー		
	10	クローラ駆動輪	クローラを駆動させる側の駆動輪です。	—
	11	クローラ	ゴム製の走行履帯です。	
	12	クローラテンション	クローラの張り具合を調整します。	29

各部の名称とはたらき

	番号	名 称	は た ら き	参照 ページ
操 作 関 係 部	13	ハンドル	左右に旋回するときに旋回する方にハンドルを回します。	16・30
	14	走行クラッチレバー	レバーを「入」で走行クラッチが入ります。	16・30
	15	駐車ブレーキレバー	駐車ブレーキをかけます。	16・31
	16	コンベア送りレバー	コンベアの送り速度を切り換えます。	17
	17	作業クラッチレバー	散布アタッチメント部への動力伝達の「入」、「切」を行います。 前に倒すと、動力が伝わります。	17,31
	18	キースイッチ	「START」位置でエンジンが始動します。 「OFF」位置でエンジンが停止します。	15
	19	チョークレバー	エンジンを始動するとき「閉」位置にします。	15
	20	ライトスイッチ	ヘッドライトを点灯させるスイッチです。	—
	21	燃料給油口	エンジンの燃料タンクの給油口です。	—

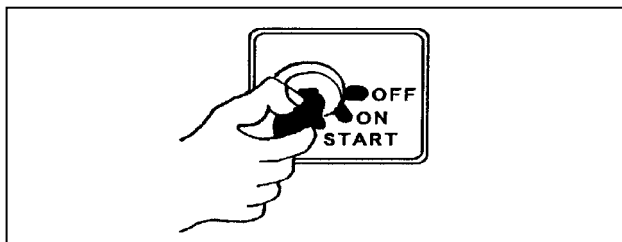
運転に必要な装置の取扱い

1. キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。

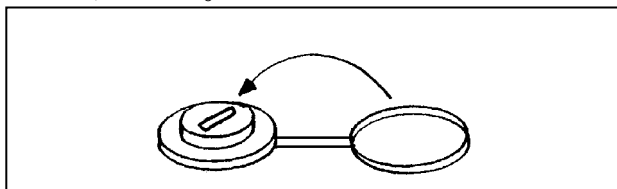
始動する時は、チョークレバーを引きスロットルレバーを少し高速側にし、キースイッチを「START(スタート)」位置まで回してください。エンジンのセルモータが回転し、エンジンが始動します。

停止する時は、キースイッチを「OFF(停止)」位置まで戻してください。



注 意

- ① 1回で始動せず再始動する場合は、エンジンのフライホイールが止まっていることを確認してから、キースイッチを回してください。
- ② セルモータは15秒以上連続して回さないでください。
- ③ エンジンが始動したら、しばらく低速で暖機運転してください。
- ④ 本機は安全のため、走行クラッチレバー、駐車ブレーキレバーを「切」位置にしないとエンジンスタータが回りません。始動する時は、クラッチレバーを「切」位置にして、またスタータへの負荷軽減のため、作業クラッチを切ってからキースイッチを回してください。
作業クラッチを切らずにスタータを回すと、条件によってはエンジンスタータが破損する場合があります。
- ⑤ 本機を使用しない時は、キースイッチを抜き、雨などが入らないようにキャップをしてください。

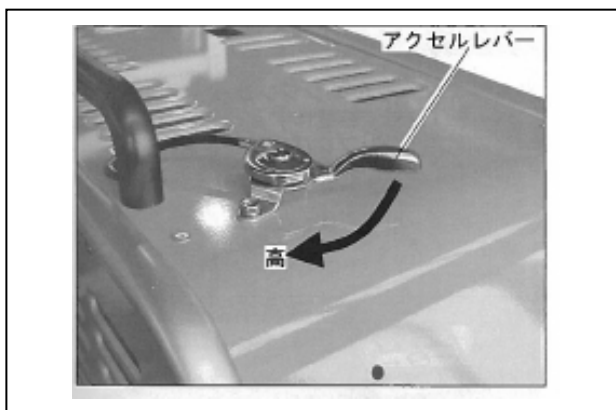


2. エンジンスロットルレバー・

チョークレバー

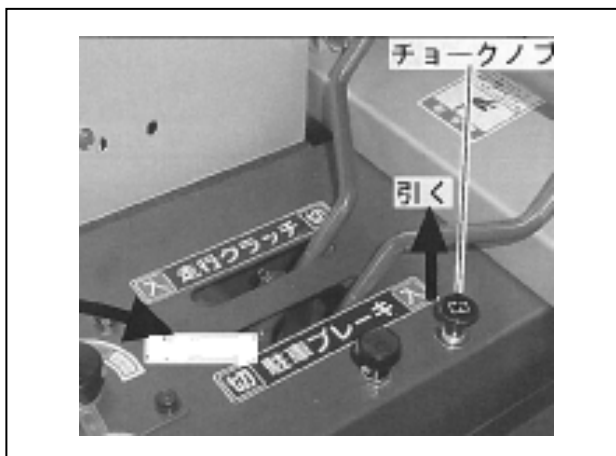
◆エンジンスロットルレバー

エンジンの回転速度を調整するレバーです。次の図のようにまわす程、エンジンの回転速度が高くなります。



◆チョークレバー

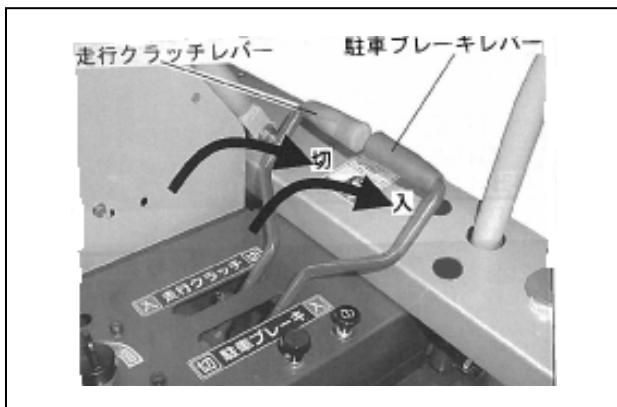
エンジンが冷えている時に始動する場合は、チョークレバーを引き「閉」にして始動してください。



運転に必要な装置の取扱い

3. 走行クラッチレバー・

駐車ブレーキレバー



◆走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを「切」位置にすると、走行クラッチが切れ、本機の走行が停止します。発進時は危険防止のため、ゆっくりとレバーを戻してください。

注意

- ①エンジンがアイドリング状態で走行クラッチレバーを「入」位置にすると、エンジンがストップする場合があります。エンジンの回転速度をある程度上げてから、走行クラッチレバーを「入」位置にしてください。また、駐車ブレーキレバーは「切」位置にしてください。
- ②本機は安全のため、走行クラッチレバーを「切」位置にしないとエンジンスタートが回りません。エンジンをスタートする時は、必ず、クラッチレバーを「切」位置にしてください。

◆駐車ブレーキレバー

駐車は平坦な場所に停車し、副変速レバーを「低速」、主変速レバーを「前進1」もしくは「後進」の位置にしてから、駐車ブレーキレバーを「入」位置にしてください。

注意

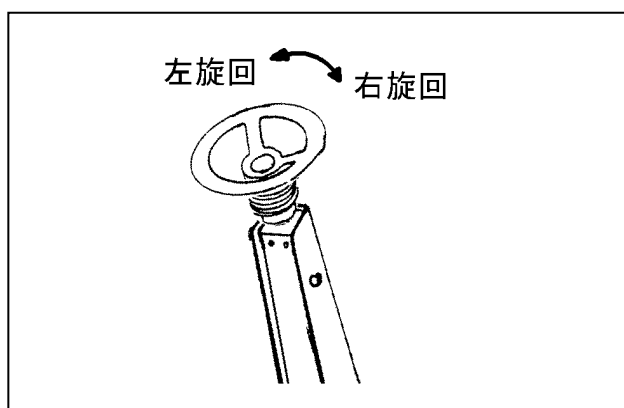
本機から離れる時には、必ず駐車ブレーキをかけてください。

走行中は駐車ブレーキを解除してください。

警告

本機に装着されているブレーキは駐車ブレーキであり、制動ブレーキではありません。

4. ハンドル



右に旋回するときは、ハンドルを右回り（時計回り）に回し、左に旋回するときには、ハンドルを左回り（反時計回り）に回してください。

機体を旋回させる時は速度を落とし、数回にわけてゆっくりと旋回してください。

警告

- 高速走行時、ハンドルを急回転させると、急旋回して危険ですので注意してください。
- 砂利道での急旋回は、クローラに石がかみ込むおそれがあるので避けてください。
- 旋回時に片方のクローラをあぜに乗りあげたり、あぜぎわでの急旋回は絶対に行わないでください。守らないと、転倒したり、クローラが外れたりするおそれがあり危険です。

運転に必要な装置の取扱い

5. 変速レバー



本機の走行速度を選択するレバーです。

《車速選択の目安》 (km/h)

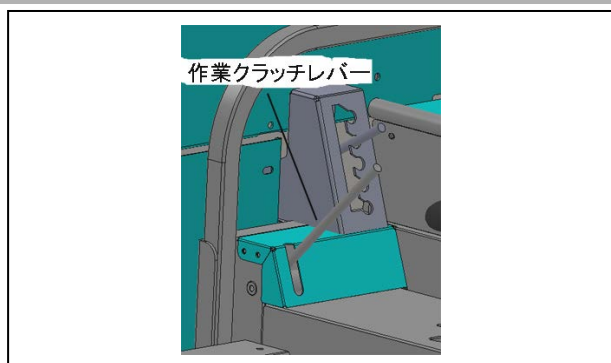
副変速	主変速	車速
低 速	1	1.9
	2	4.2
	R	2.1
高 速	1	3.2
	2	7.0
	R	3.6

※作業速度は使用条件により誤差が発生します。

注 意

変速レバーの切換えは走行ギヤボックスを傷めないよう、必ず走行クラッチレバーを「切」位置にして、機体が完全に停止した状態で行ってください。

6. 作業クラッチレバー



作業クラッチレバーを下方に倒すと、クラッチが「入」となり、散布部が作動します。作業クラッチレバーを上方に倒すと、クラッ

チが「切」となり、マニアスプレッダが停止します。

！ 警 告

- 作業クラッチレバーを「入」位置にするときは、まわりに人がいないことを確認のうえゆっくりとつないでください。
- エンジン始動時は、突然マニアスプレッダが動きださないよう、作業クラッチは必ず「切」位置にしてください。

注 意

作業クラッチを切らないでエンジンを始動すると、条件によってはエンジンスタータが破損する場合があります。

注 意

作業クラッチを入れるときは、エンジン回転を下げゆっくり入れるようにしてください。

エンジン回転を上げ急につなぐと機体が損傷するおそれがあります。

7. コンベア送りレバー



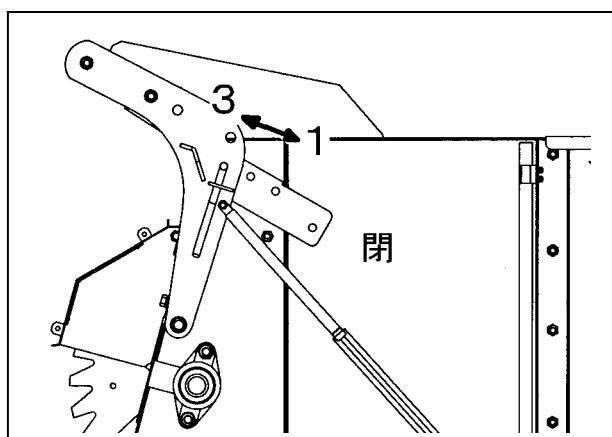
コンベア送り速度は4段階に調節できます。

「0」は停止です。「1」→「4」の順に送り速度は速くなります。

レバーを調節する時は、作業クラッチレバーを「入」位置にしてビータを回転させながら行ってください。

運転に必要な装置の取扱い

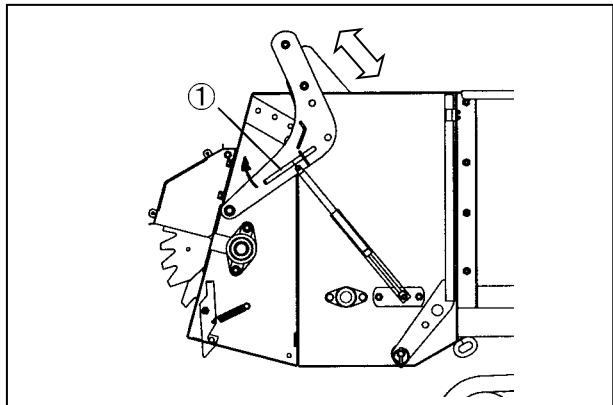
8. ゲート



ゲートの開度は3段階に調整できます。
いちばん下の穴にすると、ゲートが閉じた状態になります。

◆ゲートの調整方法

- ①ロックピンを回し、ロックを外してゲートの位置を1～3にし、高さ調節をしてください。



⚠ 警告

- ゲートの調整は必ず、平坦な場所に停車しエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけ、回転部が完全に停止してから行ってください。
回転部に巻き込まれるおそれがあり危険です。

9. シート



シートはピンを入れ替えることにより
前後の調節ができます。

作業前の点検について

作業の安全確保と故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。

警告

- 取り外したカバー類は必ず取り付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 調節・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。やけどをするおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対に使用しないでください。また、燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。まもらないと火災の原因となります。

点検一覧表

項 目		内 容	参照ページ	チェック
本機を廻って	前回使用の異常箇所	修理、補修が完全に行われているか	—	
	損傷・汚れ・ボルトの緩み	車体の損傷、緩み、ガタつきがないか	—	
	クローラの張り	適正な張力	29	
	エンジンオイル	オイル量と漏れ	27	
	エンジンの燃料	燃料タンク	—	
	エンジンのエアクリーナ	エアクリーナの汚れ(重要)	27	
	バッテリー	バッテリー液量の点検	28	
	配線コード	コードの被覆の剥がれ、接続部の緩み	—	
	各部への注油・グリスアップ	各部への給油参照	34	
エンジンを始動して	走行クラッチレバー	「入」「切」の作動確認	30	
	駐車ブレーキレバー	「入」「切」の作動確認	31	
	作業クラッチレバー	「入」「切」の作動確認	31	
	ハンドル	スムーズな作動	30	
	キースイッチ	作動確認	15	
	エンジン音	異音がないか	—	

運転のしかた

1. 新車の取扱い

新車は、使用時間50時間までの取扱いが大変重要です。この時期以後の自走式マニアスプレッダの寿命、性能に大きく影響します。

◆最初の20時間目の手入れ

エンジンオイルを交換してください。

◆最初の50時間までの取扱い

- ①重作業、急発進、急ブレーキなどは避けてならし運転をしてください。無理な作業をすると摩耗を早めます。
- ②マニアスプレッダ部のコンベアチェンの張り具合を確認し、調節を行ってください。

◆300時間目の手入れ

ギヤボックスオイルを交換してください。

◆作業する前に

- ①エンジンはアイドル(無負荷、低速回転)で暖気運転を5分間行ってください。暖気運転は、エンジン各部の潤滑を良くし、自走マニアスプレッダの寿命を延ばします。また、冬に限らず暖気運転を行う習慣をつけてください。
- ②空ふかしはやめてください。
- ③ボルト、電気配線などの緩み、その他不良はないか確認してください。

注意

暖気運転中は、必ずクラッチペダルを駐車ブレーキ金具で固定してください。

2. 走行順序

！ 注意

- 発進するときは周囲の安全を確かめてから発進してください。
- 作業中および移動時は、安全のためにヘルメットを着用してください。
- 作業者の他に人を乗せないでください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている場所は路肩に充分注意してスピードを落として走行してください。

- ①走行クラッチレバーを「切」にしてください。
- ②変速レバーを「N」にセットします。
- ③スロットルレバーを半ストロークほど上げます。
- ④キーを回しエンジンを始動させます。
- ⑤アイドル状態にして暖気運転をしてください。(エンジンが温まっている時は、暖気運転は不要です。)
- ⑥変速レバーで必要な走行速度にあわせてください。
現場の状況や積載重量に合わせて、速度を決定してください。
- ⑦駐車ブレーキレバーを「切」の方へ倒し、走行クラッチレバーを「入」に倒すと、クラッチがつながり走行します。

注意

- 走行クラッチレバーを「切」位置にしないと、安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。クラッチレバーを「切」位置にしてからセルスタータを回してください。
- メインスイッチを「START」位置にし、セルスタータを回して10秒たっても始動しない時は、一旦メインスイッチを切って、30秒ほど休止してからエンジンを再始動してください。15秒以上の使用は、故障の原因になります。
- エンジンが始動したら、5～10分間暖気運転をしてから作業を行ってください。(長持ちさせるために行います。)
- エンジン回転中はキーを「START」位置にしないでください。
セルモータが破損します。

3. 停止順序

- ①走行クラッチレバーを「切」に倒します。
- ②駐車ブレーキ「入」に倒します。
- ③変速レバーを「N」位置にします。
- ④スロットルレバーを戻し、エンジン回転を下げます。
- ⑤キースイッチを「OFF」位置にします。

運転のしかた

注意

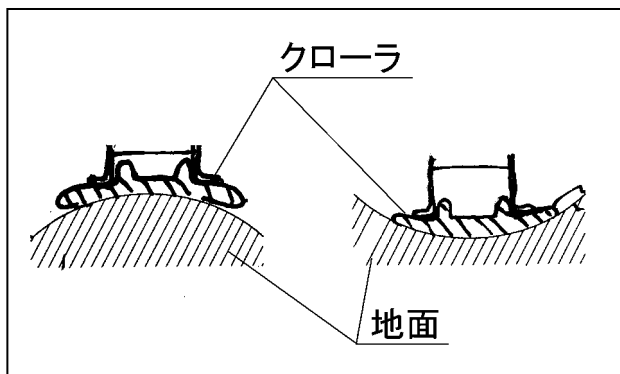
- 坂道で停車する時は、エンジン停止後、副変速レバーの位置を「低速」かつ主変速レバーの位置を「前進1」または「後進1」にしてから、下側のクローラと地面の間に車止めをしてください。
- 停止後は必ずメインスイッチを切ってキーを抜いてください。

4. 走行時の注意

①次のような路面で走行すると、ゴムクローラの接地面側に傷が発生し易いので、なるべく避けてください。やむをえず走行する場合は、急旋回をやめ、ゆっくり走行してください。

- ・ 碎石を敷いた路面
- ・ 石の多い路面
- ・ 切り株の多い路面

②次のような断面形状の路面では、脱輪が発生しやすいので、ゴムクローラの状態に注意しながらゆっくりと走行してください。



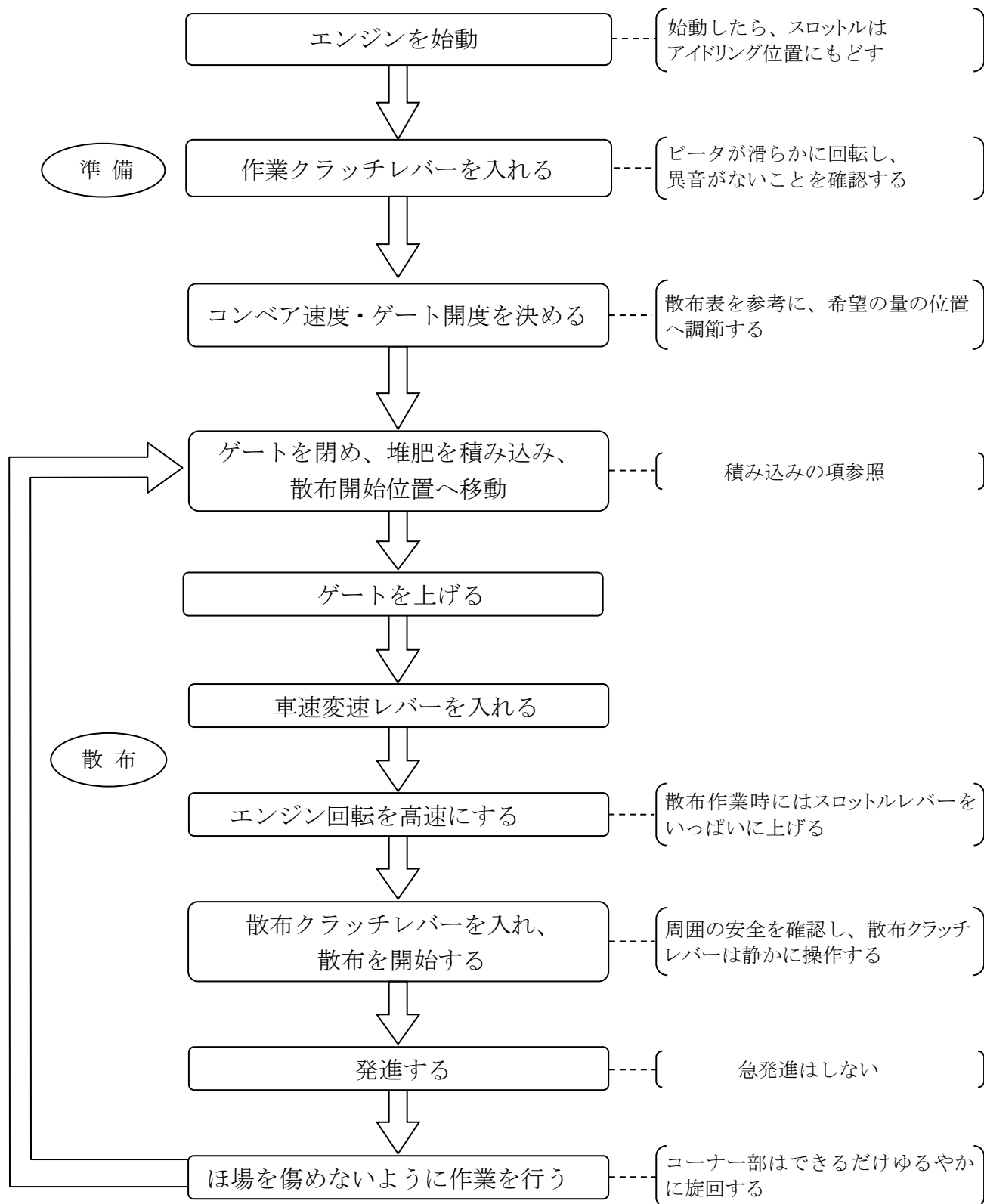
③等高線に対して直角方向に走行し、旋回時は速度を落とし、急旋回しないでください。

警告

等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

作業方法

1. 作業手順と要点



注意

- 最終散布で堆肥がビータ近くにきたら、エンジン回転を下げて散布してください。
(最後の少量が運転席の方向に飛び散るのを防止するためです。)
- 散布を続ける場合は少量を残し、再び積み込みを行ってください。

作業方法

2. 堆肥の積み込み



警告

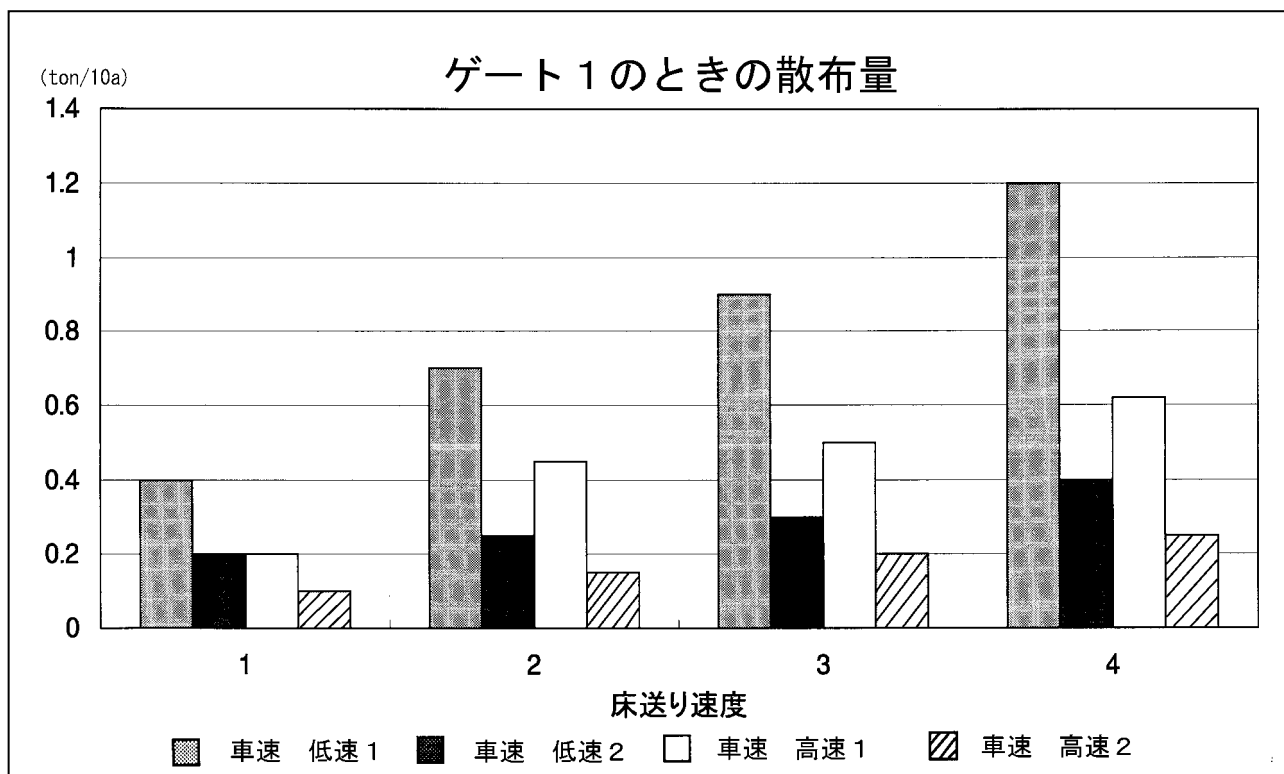
- 本機の積載量は1000kgです。規定以上の量を積み込むと機械が破損するだけでなく、安全な走行・作業が行えません。十分注意してください。
- 堆肥に石や木片が混入すると危険です。積み込む時に十分注意してください。

①堆肥の積み込みは、本機を水平な場所に移動し、エンジンを停止して駐車ブレーキをかけてから行ってください。

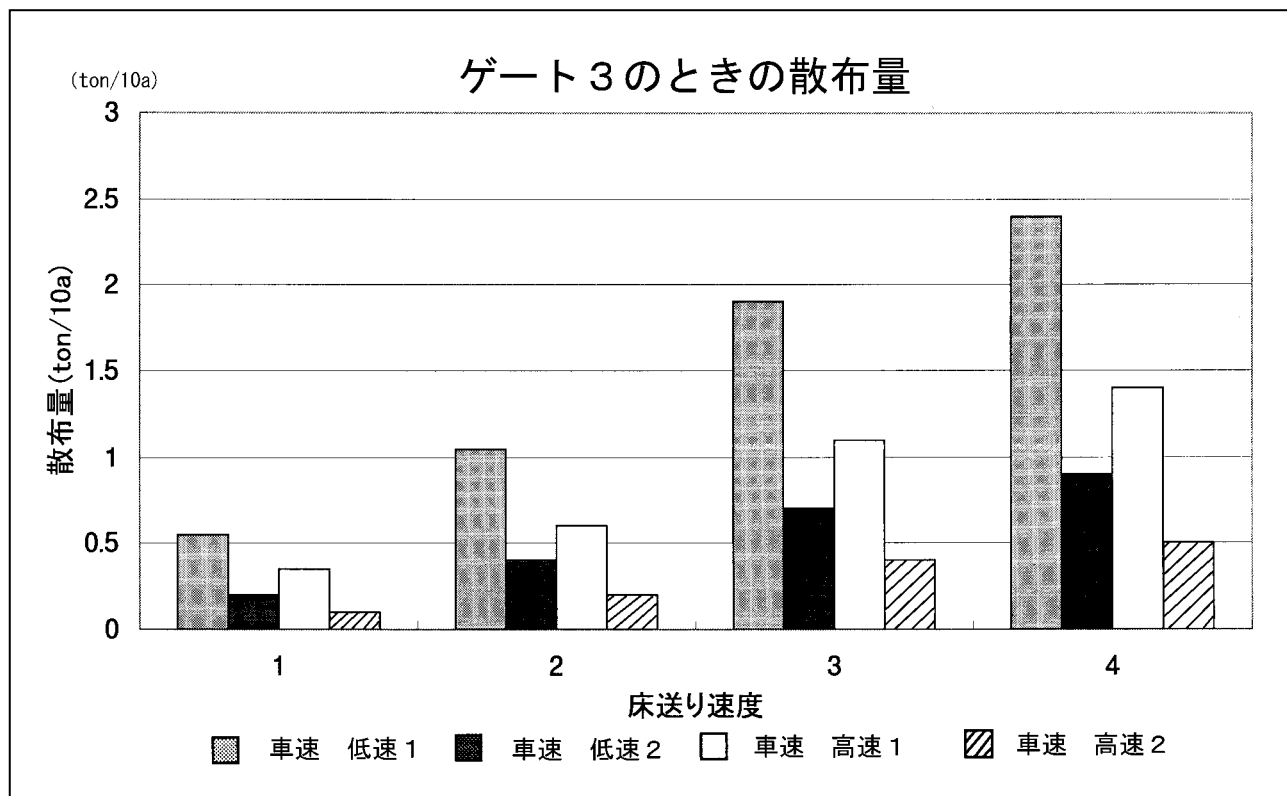
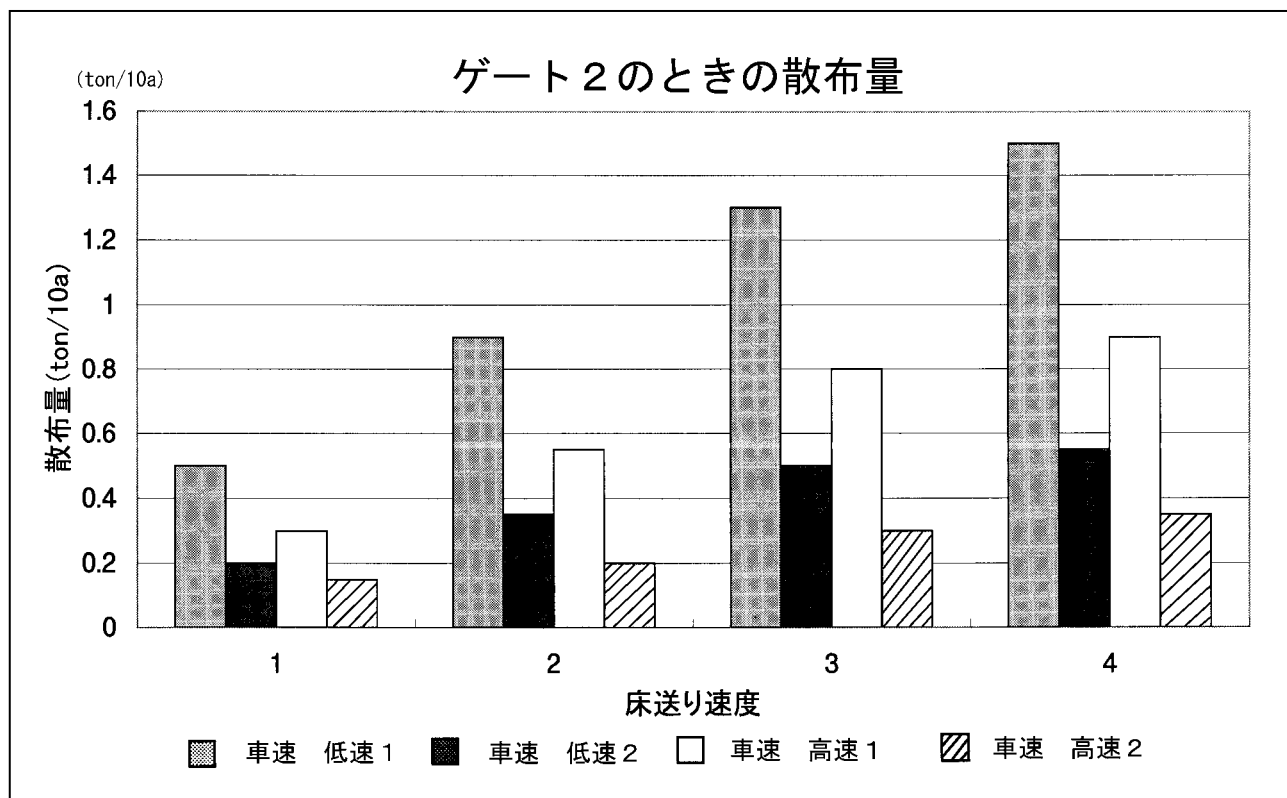
②堆肥を荷台に積み込む場合には、前方から後方の順に積み込むと、堆肥がほぐれやすくなります。また、積み込み高さはアオリの高さまでとしてください。それ以上の積み込みは、堆肥のこぼれや、機械故障の原因となります。
ワラ入り未完熟堆肥のような負荷の大きい堆肥を散布する時には、積み込み量を若干少なくするようにしてください。

3. 散布量の調節

散布幅 6 mの場合



作業方法



堆肥の散布量はゲート位置、コンベア送り速度と車速(作業速度)とで調節します。

ゲートは3段階に、コンベア送り速度は4段階に調節できます。

上表を目安に10a当りの希望の散布量に合ったゲート位置、コンベア送り速度、車速を決定してください。

積載量によってはエンジンに負荷がかかりますので、その場合は車速を落として作業してください。

作業方法

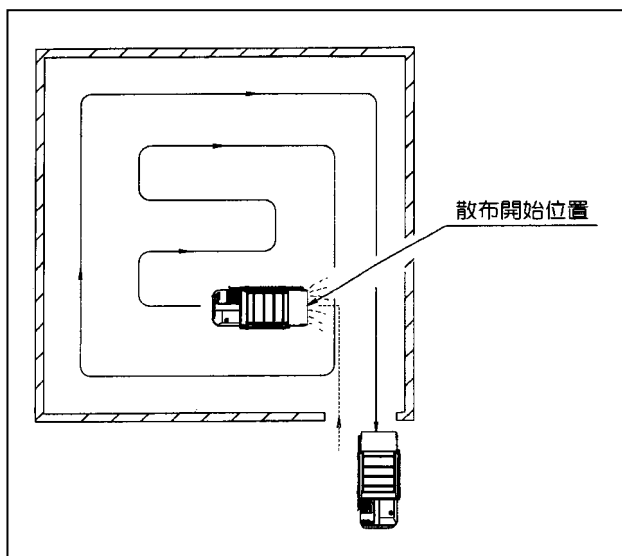
注意

- コンベア速度はむやみに速くすると、エンジンや堆肥の送り機構に無理な力がかかります。
- 散布表はあくまで目安としてください。堆肥の状態により散布重量は異なりますので、実際の散布量を見て調節してください。

警告

回転中のビータ・コンベアバー・コンベアチェンに巻き込まれると重傷を負います。手や足で絶対に触れないようにしてください。

4. 散布方法



散布方法は、ほ場の中央部より外側に向かって散布します。

中心部は往復散布、ほ場の外側は廻り散布を行うと能率的でクローラへの堆肥の付着も少なくてすみます。

注意

- 散布は低速－1速、または高速－1速で行ってください。なじみ運転期間中は低速－1速で行ってください。
- 傾斜地では、作業に充分注意して安全速度で行ってください。

注意

- 散布作業時は、周囲に人がいないか十分に注意してください。
- 散布中は、堆肥中に混入した小石などが前方へ飛散する場合がありますので決してマニアボックス内へ顔を出さないでください。

5. 移動するときには

本機で公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラック等で運搬してください。

6. トラックへの積み込み・積降ろし

トラックへの積み込み・降ろしは、次の要領で行ってください。

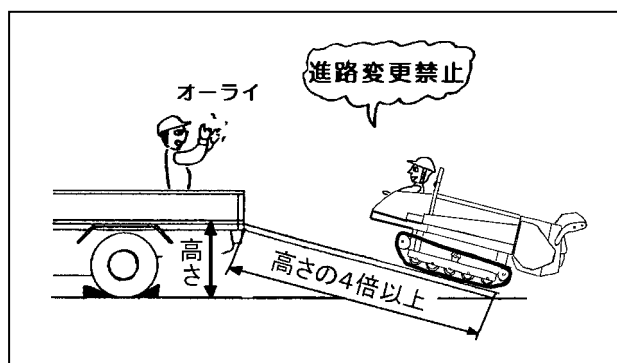
おもわぬ事故につながるおそれがありますので、積み込み、降ろしとも十分注意してください。

警告

- 積み込み・降ろしの場所は、周囲に危険物のない、平坦で安定した場所を選んでください。
- アユミ板のフックを荷台に段差のないように確実に掛けてください。
- 機械が不意に動いたときに危険ですので、周囲には立たないでください。
- ハンドルを操作してアユミ板の上での進路変更は絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて転倒するおそれがあります。
- アユミ板とトラックの継ぎ目を越える時は、急に重心が変わりますので十分注意してください。特に、スピードの速い時には転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。

作業方法

- ①トラックおよびトレーラへの積み込み・降ろしは平坦地を選び、補助者1名の立合いのもとで行ってください。
- ②積み込み・降ろしに使用するアユミ板は滑り止めの加工があり、1本で600kg以上の荷重に耐えられるものでトラック荷台高さの4倍以上の長さのものをご使用ください。
- ③アユミ板のフック部をトラックの荷台部に確実に掛けて外れないことを確認してから、本機の積み降ろしを行ってください。
- ④積み込み時の車速は最低速度で安全運転をしながら行ってください。
- ⑤トラックおよびトレーラへの積み込みは必ず、前進走行で行ってください



7. トラックおよびトレーラでの運搬

警告

丈夫なロープを本機に掛け、確実に固定し、本機の駐車ブレーキをかけてください。

守らないと、急ブレーキをかけた時などに荷台から本機が転落するおそれがあります。

本機を運搬する時は積載量1.5t以上で、十分な広さを有するトラックまたはトレーラを使用し、運転には坂道やカーブに注意して安全な速度を厳守してください。

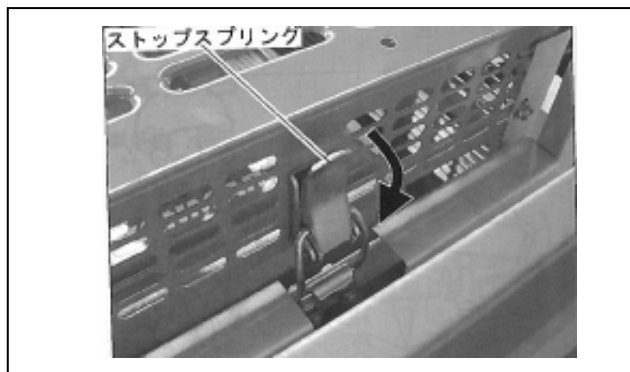
簡単な手入れと処置

！ 警告

- 各部のカバーを開けたり、調整をする時は、必ずエンジンを停止して回転部が止まってから行ってください。
- 取り外したカバー類は、必ず元どおりに取り付けてください。

1. エンジンカバーの開け方

ストップスプリングを外すことで、エンジンカバーを持ち上げることができます。



2. エンジンの点検・調整

※エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」を必ずお読みいただき、日常の点検・整備は万全に行ってください。

3. エンジンのエアクリーナ（重要）

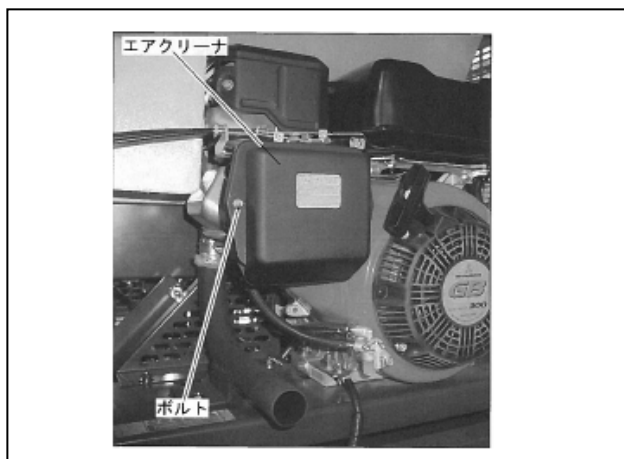
本機はホコリの多い環境で使用するため、エアクリーナの点検・清掃が大変重要となります。次の手順に従い、作業前には毎日点検・清掃を行ってください。

守らないと、エンジンが不調となるばかりでなく、エンジンの摩耗が早まり寿命が大きく低下する原因となります。

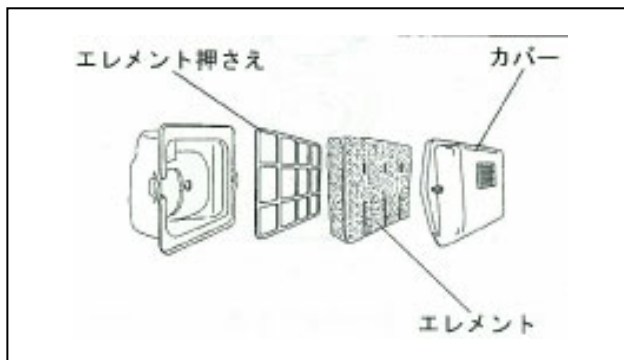
！ 危険

エアクリーナのフタ(カバー)を外したまま作業しないでください。守らないと、逆火により、火災が発生するおそれがあります。

- ①ボルトを緩めてエアクリーナのカバーを取り外します。



- ②中のエレメントを取り外して、灯油で洗ってエンジンオイルに浸します。



- ③エレメントを硬くしぼって取付けカバーを確実に元通りに取付けてください。

注意

組付け後は、ボルトを確実に締付けてください。

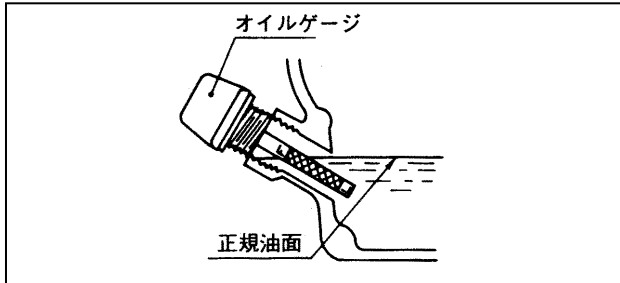
締付けが不十分ですと、ゴミ等を吸込んでエンジンが早く摩耗する原因となります。

簡単な手入れと処置

4. エンジンオイルの点検と交換

◆オイル量の点検

毎運転前に必ずオイル量を点検し不足している場合は、正規油面まで補充してください。



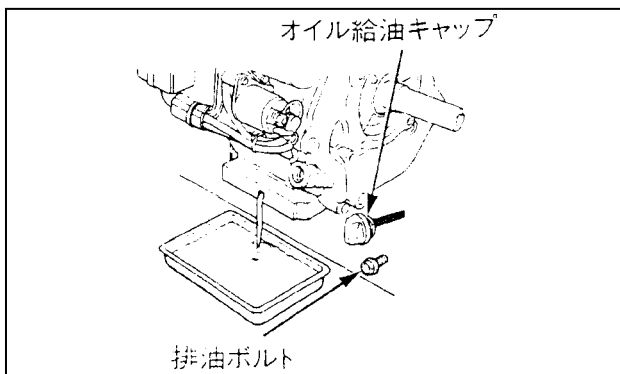
◆オイルの交換

エンジンオイルの交換時期

初 回 : 20時間後

2回目より : 50時間毎

- ② 排油ボルトを外し、エンジンオイルを抜く。



- ②排油ボルトをきれいに洗い、確実に締め付けてください。

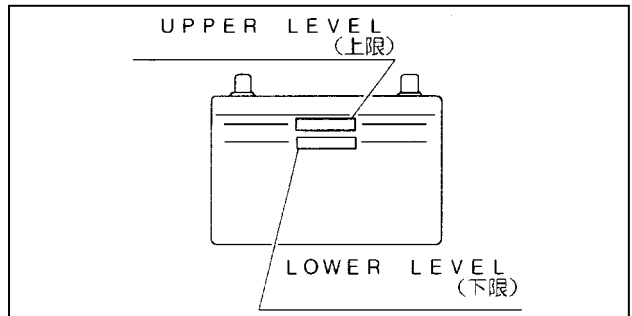
- ③エンジンオイル1.0ℓ(10W-30)を計量してジョッキに入れ、注油してください。

- ④オイルが規定量まで入っているかを確認してください。

! 注意

熱いオイルが体にかかると火傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

5. バッテリーについて



バッテリーの電解液中の水は、蒸発して減少します。液面が、LOWER LEVELとUPPER LEVELの間であれば適正です。少ない時は、蒸留水またはバッテリー補充液を補給してください。

! 注意

- バッテリーからバッテリーケーブルを外す時は(－)側から外し、取り付ける時は(＋)側から行ってください。逆にすると、工具が本機に当たった場合にショートして火花が生じ危険です。
- バッテリーにケーブルを接続する時(＋)と(－)を間違えないようにしてください。もし間違えると、バッテリーや電装品を破損させます。
- バッテリー液は過不足がないようにしてください。多いと液があふれて本機を腐食させ、少ないとバッテリーの極板が破損し、寿命が短くなります。
- 冬期間は充電不足にならないように注意してください。放電ぎみですと電解液が凍り、バッテリー本体を破損させる場合があります。
- 長期間本機を使用しない場合は1～2ヶ月に1度は充電してください。定期的に比重を測定し、バッテリーの状態を確認してください。比重が1.22～1.28であれば正常です。

簡単な手入れと処置

⚠ 危険

バッテリーは引火性ガスを発生します。取り扱いを誤ると爆発や大ケガをすることがあります。

(特に保守、点検、充電、ブースターケーブル使用時には危険のないように取り扱ってください。)

●火気厳禁

・・・ショートやスパーク、タバコなどの火気を近づけないでください。⇒爆発

●通風のよい所で

・・・閉めきった場所での使用や充電は危険です。⇒爆発

●バッテリー液は希硫酸

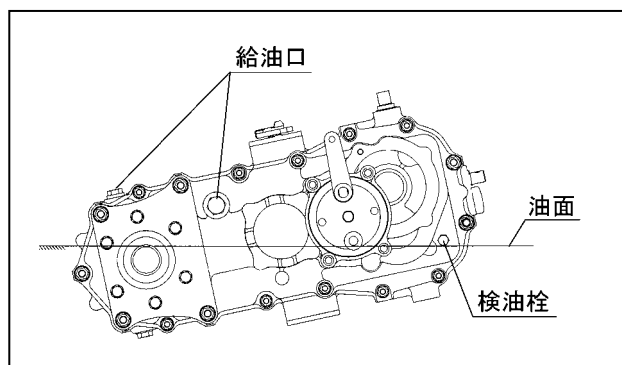
・・・皮膚、目、衣服につくと危険です。⇒やけど、失明

《応急手当》

●皮膚や衣服についた時は、多量の水で洗い流してください。

●目についた時は、ただちに多量の水で洗い、医療機関を受診してください。

6. 走行ギヤボックスのオイル点検



ギヤボックスケースに検油栓まで指定オイルが入っていることを確認し、不足している場合は、注油口から検油栓の位置まで給油してください。

メインケース - 6.0 l

◆指定オイル

●ヤンマー：TF300

◆相当品

●コ ス モ：コスモノーキ 10W-30

●昭和シェル：シェル農機オイル 10W-30

◆オイル交換時間

1回目：50時間

2回目以降：年1回シーズン初め

7. クローラ張力の調整

クローラは新品時には初期伸び、走行距離が多くなるとスプロケットとの馴染みによる緩みが生じるため調整が必要です。クローラの張りが正常でないと、脱輪したり、クローラの寿命を著しく縮める原因になります。

①車体を水平な場所に停車します。

②ジャッキアップ等して片側のクローラを地面から平行に浮かせます。

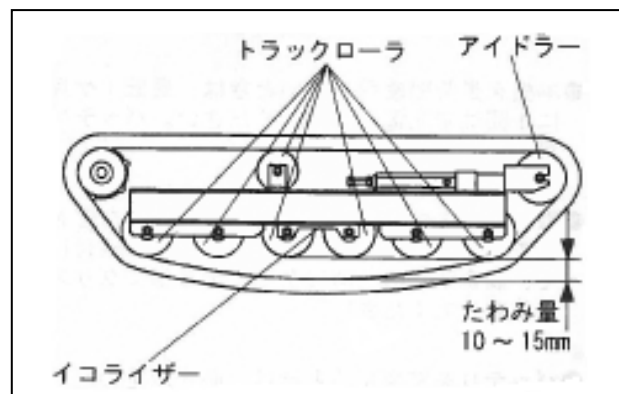
⚠ 注意

ジャッキ等が外れないように充分注意してください。

③ロックボルトを緩め、クローラ張りボルトのロックナットを緩めます。

④クローラ張りボルトを回して、クローラと可動転輪の隙間が10～15mm程度になるように調整します。

⑤調整後、ロックナットを締め付けます。



簡単な手入れと処置

注意

- 調整は平坦地を選び、エンジンを停止してから行ってください。
- 調整後、ロックナットは確実に締め込んでください。
- 調整後、ボルトのネジ部にグリスを塗布しておく、錆の発生を防ぎ以降の調整が容易となります。
- クローラの張りすぎにご注意ください。
作業中、クローラ内接面に土が多量に付着した場合は、都度エンジンを停止し除去してください。
また、使用後は付着した土を水洗い除去してください。
土噛みは放置しておく、クローラの異常張力の原因となり、走行ギヤボックスおよび走行部の損傷をまねきます。

8. ハンドルの調整

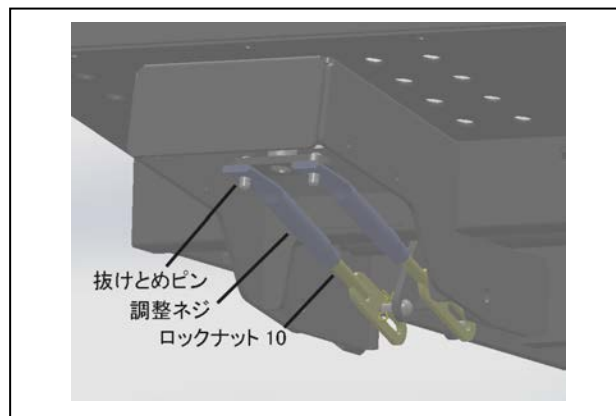
ハンドルを回して、旋回するかを確認してください。

また、ハンドルが中央位置にある時に、直進するかを確認してください。

ハンドルを回した時、回した側のクローラが完全に停止しない場合や、ハンドルが中心にあっても直進しない場合は、調整してください。

注意

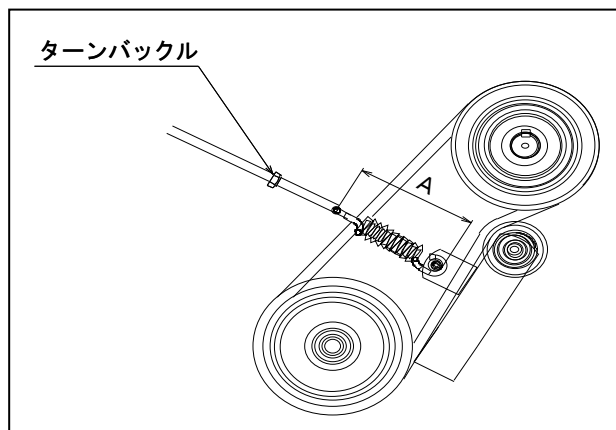
- 調整は平坦地を選び、エンジンを停止してから行ってください。
 - ハンドルの調整の前に、ハンドルに触れず1 m程前後進してください。
走行ギヤボックス内のギヤの噛み合わせにより、見かけのハンドル中心位置がずれている場合があります。
- ①ハンドル下のカバーを外してください。
 - ②ロックナット10を緩め調整ネジでハンドルの遊びの調整をしてください。



9. 走行クラッチレバーの調整

走行中Vベルトのスリップ等が見られましたら調整してください。

- ①走行クラッチレバーを「入」位置にしてください。
- ②A部のスプリングの内寸法が110mmになるようにターンバックルで調整してください。
- ③走行クラッチペダルを踏み込んだときに、クラッチが完全に切れ、走行ギヤボックスのプーリの回転が停止することを確認してください。
クラッチが切れない場合は、ベルト押さえで調整してください。

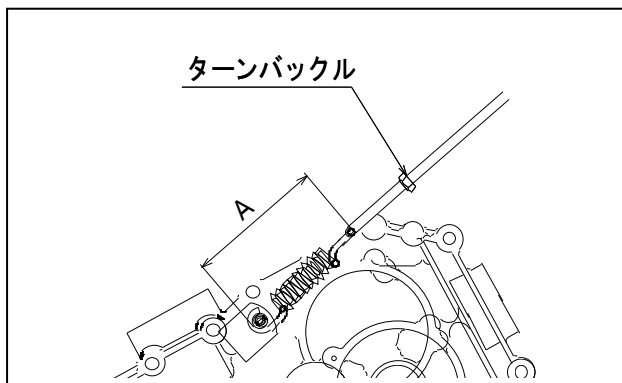


簡単な手入れと処置

10. 駐車ブレーキレバーの調整

ブレーキパッドが磨耗した時は調整してください。

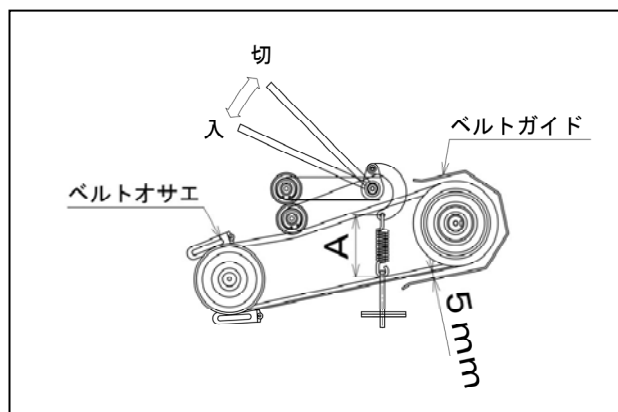
- ①駐車クラッチレバーを「入」位置にしてください。
- ②ロックナットを緩め、スプリングのA寸法が110mmになるようにターンバックルで調整してください。



11. 作業クラッチの調整

散布作業中(始動時は除く)にVベルトのスリップ等が見られましたら調整してください。

- ①作業クラッチを「入」位置にします。
- ②スプリングの内寸法Aが110mmになるようにワイヤのネジで調整してください。
- ③作業クラッチを「切」位置にしたとき、クラッチが完全に切れることを確認してください。
切れない場合はベルト押さえで調整してください。



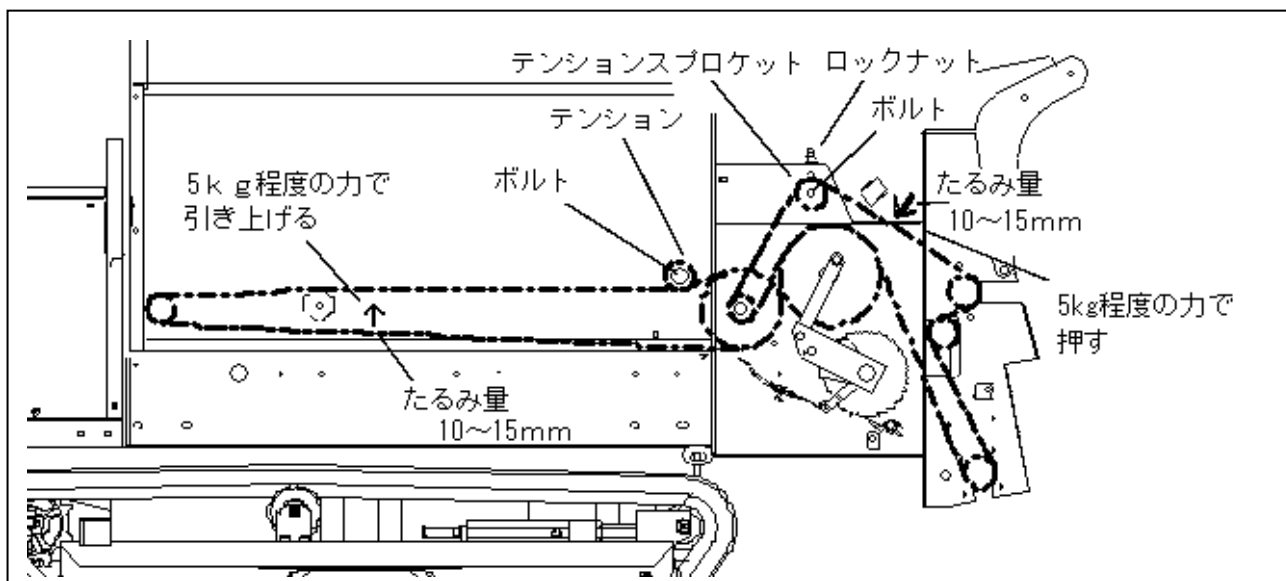
作業クラッチが「入」位置の状態、上図のVベルトとベルトオサエの隙間が5mm程度とし、ベルトと接触しないように、ベルト廻り止めおよびベルトガイドを調整してください。

簡単な手入れと処置

12. 各部のチェーンの調整

下図のテンションのボルトを緩め、適正なたるみ量をとってテンション調整を行い、ボルトで固定してください。

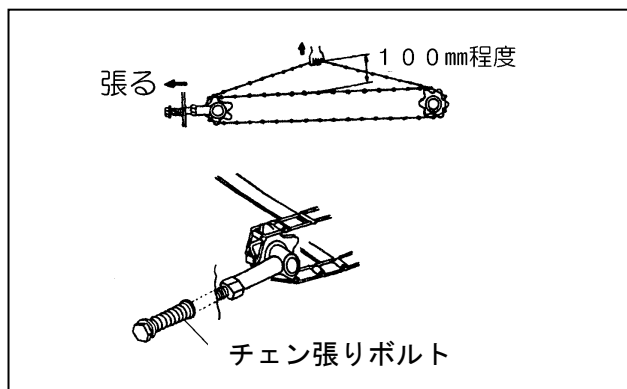
テンションはロックナットの固定も行ってください。



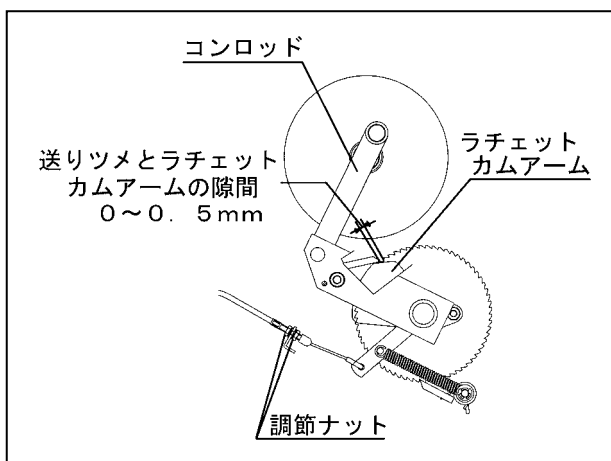
13. コンベアチェーンの調整

床送りのコンベアチェーンは、長期間使用すると伸びが生じます。

時々、張り具合が規定通りかどうか確認し、伸びている場合は、機体の前方にあるコンベアチェーン張り用のボルトで調節してください。



14. コンベア送り機構部の調整

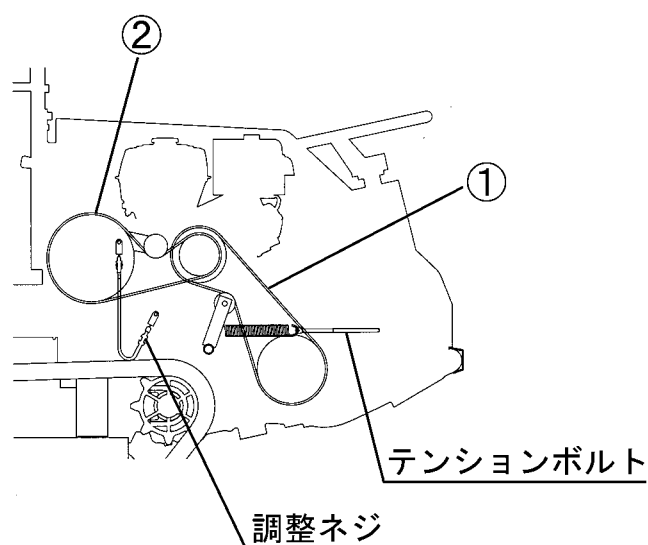


コンベア送りの速度がばらついたり、機構部の部品を交換したときは、コンベア送りのコントロールワイヤを次の要領で調節してください。

- ① ビータを手で回して、コンロッドが「引き」から「押し」に変わる支点位置にします。
- ② 送りツメとラチェットカムアームとの間隔が0~0.5mmとなるように、ラチェットカムアームの位置をワイヤケーブルのナットで調節してください。

簡単な手入れと処置

15. 各部のベルトの調整



各Vベルトの調節は次の表に従い、行ってください。

ベルトに損傷がある場合は早めに交換してください。交換の際は、2本同時に交換してください。

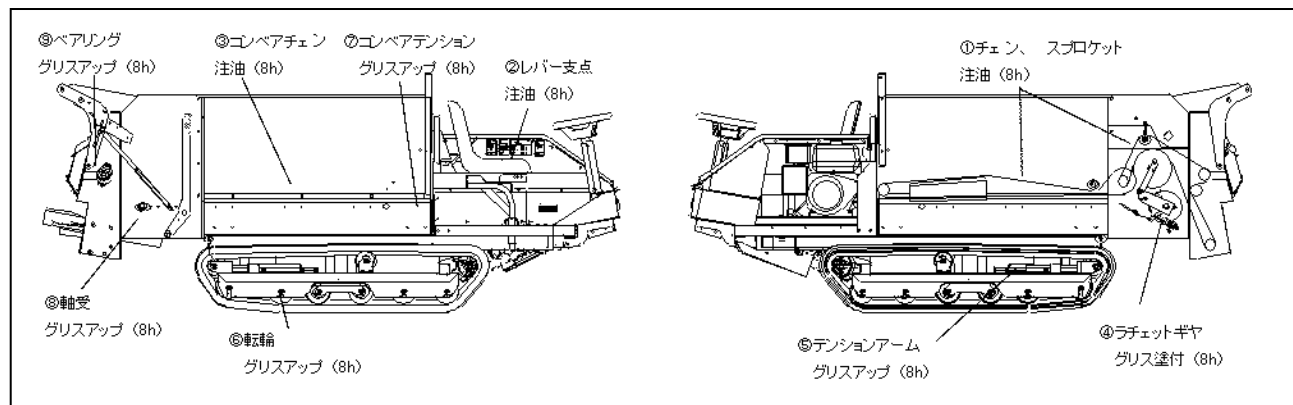
ベルトのサイズ		調節方法	張りの程度
①	LB-36 (スーパーゴールド) (03610-3120-360)	走行クラッチレバーを「切」状態でベルトが止まり、「入」状態でベルトが廻っているように、P30の走行クラッチの調整を参考に調整してください。	ベルトの中央部を指で押し(約3kg)10～15mmのたるみがあること。
②	LB-51 (スーパーゴールド) (03610-3120-510)	作業クラッチが「入」状態でクラッチが入り、「切」状態でクラッチが切れているように、P31の作業クラッチの調整を参考に調整してください。	

簡単な手入れと処置

16. 各部への注油、グリスアップ

主な給油箇所を下図に示します。

指定時間毎に注油、グリスアップを行ってください。



注意

作業条件が悪い場合や、連続作業で稼働時間が長いときは指定時間より早めに注油、グリスアップを行ってください。

17. 日常の管理について

- ビータに堆肥が付着していると散布性能が変化します。いつも、きれいにしておいてください。
- 作業終了後は、常に掃除をするように心掛けてください。

警告

残った堆肥の取り出しや掃除をする時は、作業クラッチを切り、エンジンを完全に停止してから行ってください。

18. 長期格納時の手入れ

長期にわたってご使用にならないときは、次のことを行い、本機を保管してください。

- 水洗いして、付着した堆肥や埃などを落とし、異物を取り除いてください。
- 乾燥後は、各回転部・摺動部には充分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装の剥がれた部分には、補修塗料等を塗り錆が出ないようにしてください。

- 各部のボルト、ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときには締めてください。
- エンジンの燃料タンクからガソリンを完全に抜いてください。また、燃料パイプ等に残ったガソリンはエンジンを始動し使い切ってください。
- バッテリーはできるだけ機体から取り外し充電したうえで、日光の当たらない乾燥したところに保管してください。やむを得ず、本機に取り付けたまま保管するときは、必ずアース側(マイナス側)を外してください。
- 給油箇所には注油あるいはグリスアップをしてください。
- 格納する場所は、雨や埃のかからない屋内に保管してください。
- 格納は、平坦な所で保管してください。

簡単な手入れと処置

19. 使用済廃棄物の処分について

機械の廃油等廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。

機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや川、沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てる時には、販売店、または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ペ ー ジ
●スタータが回転しない	●バッテリーが放電している ●バッテリー端子部の緩み、外れまたは腐食している ●キースイッチの不良 ●リード線、コネクタが外れている	●バッテリーを満充電する ●端子部を清掃し、確実に締付けてグリスを塗布し、防錆する ●交換する ●コネクタ、リード線を点検する	28 28 — —
●スタータは回るがエンジンが始動しない	●燃料タンクにガソリンが入っていない ●燃料コックが「閉」になっている ●燃料に水などの不純物が混入している ●点火プラグが悪くなっている	●ガソリンを補給する ●燃料コックを「開」にする ●水抜きまたは新しい燃料にする ●点火プラグを外し、火であぶるか、乾いた布などでよく乾燥させる ●点火プラグのすき間を調整する	— — — — —
●エンジンの定格出力が出ない	●エアクリーナが目詰まり ●チョークが戻っていない	●エレメントを清掃する ●チョークを戻す	27
●走行しない	●駐車ブレーキレバーが「入」位置になっている ●変速レバーが「中立」位置になっている ●走行用Vベルトがスリップしている ●走行用Vベルトが切れている	●駐車ブレーキレバーを「切」位置にする ●変速レバーを「低速」または「高速」位置にする ●Vベルトの張りを調整する ●Vベルトを交換する	16 17 30 33
●駐車ブレーキが効かない	●駐車ブレーキの調整不良 ●ブレーキパッドが磨耗している	●駐車ブレーキを調整する ●ブレーキパッドを交換する	31 —
●ハンドルの効きが悪くなった (旋回しにくくなった)	●ハンドルリンクの遊びが大きすぎる	●あそびの調整をする	30
●散布しない	●作業用Vベルトがスリップしている ●作業用Vベルトが切れている ●床送りが動いていない ●ゲートが閉じている	●Vベルトの張りを調整する ●Vベルトを交換する ●送りレバーを入れる ●コントロールワイヤを調整する ●ゲートを開ける	31 31 17 32 18

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ペ ー ジ
● 散布量が少ない	● 床送り速度が遅い ● 床送りコンベアの調整不良 ● ビータに長ワラ、草などが巻き付き、ビータの作用が不十分 ● ゲートの開きが不十分	● 床送り速度を変更する ● コントロールワイヤを調整する ● 巻き付いているものを除去する ● ゲートを開ける	17 32 — 18
● 散布幅が狭い	● 作業用Vベルトがスリップしている ● ビータの羽根が変形、脱落している ● 堆肥を積みすぎている	● Vベルトの張りを調整する ● 新しい部品と交換する ● 適正な積み方をする	31 — 23

付 表

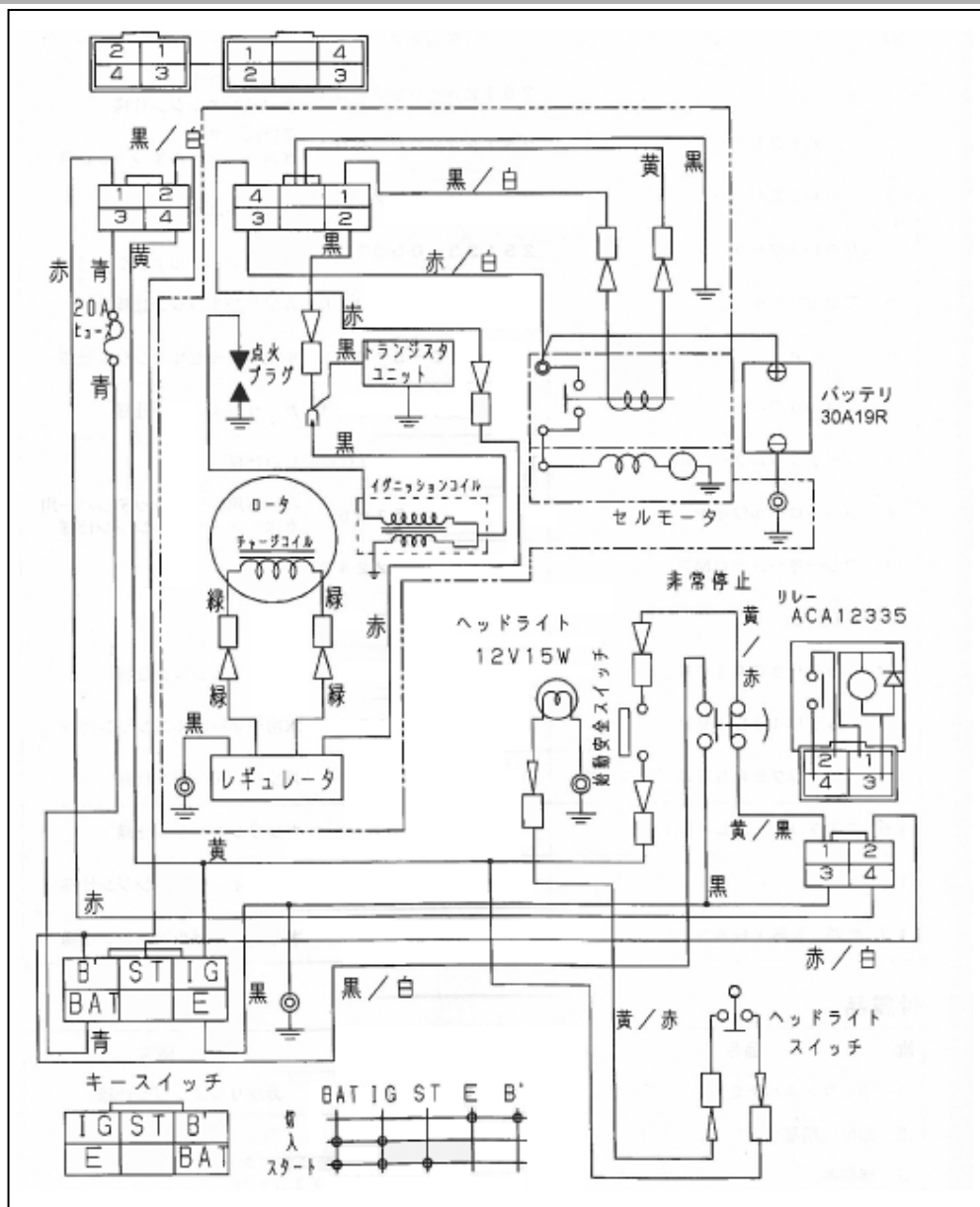
1. 主要諸元

品		名	自走マニアスプレッタ		
型		式	SD1021D		
ビ		ー	タ	形 式	ディスクビータ
車体寸法	全		長		3, 400mm
	全		幅		1, 475mm
	全		高		1, 375mm
地 上 高	最 低 地 上 高		180mm		
	床 面 高 さ		650mm		
機 体 質 量 （ 乾 燥 ）			1, 010kg		
荷 台 寸 法 （ L × W × H ）			1, 480×1, 300×600		
最 大 積 載 量			1, 000kg(MAX 1. 6m ³)		
ゴムクローラ 寸 法	ク ロ ー ラ 幅		300mm		
	中 心 間 距 離		830mm		
	接 地 長		1,250mm		
接 地 圧	空 車 時		12. 7kPa (0. 13kg／cm ²)		
	積 載 時		26. 5kPa (0. 27kg／cm ²)		
旋 回 方 法			サイドクラッチ湿式多板ブレーキ		
速 度	低	前 進 1	1. 9km／h		
		前 進 2	4. 2km／h		
		後 進	2. 1km／h		
	高	前 進 1	3. 2km／h		
		前 進 2	7. 0km／h		
	速	後 進	3. 6km／h		
エ ン ジ ン			定格5. 5kW(7. 5ps)OHV ガソリンエンジン 最大7. 3kW(10ps)		
散 布 幅			6. 0m～10. 0m		

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

付 表

2. 配線図



3. 主な消耗部品

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	員数	備 考
コンベアチェン	11601 1323 001	—	#57チェン
コンベアバー	43105 5820 001	—	
スクレパーバー	43105 5850 001	—	スクレパー付
Vベルト (エンジン→走行ミッション)	03610 3120 360	2	LB-36 (スーパーゴールド)
Vベルト (エンジン→中間軸)	03610 3120 510	2	LB-51 (スーパーゴールド)
ボルト M6×25(12.9)	01112 0600 250	2	
ナイロンナット 6	02311 4001 060	2	